



ひらどだい

令和3年度 学校だより 10月号 横浜市立平戸台小学校学校長 藤巻 孝之



肌で感じる

校長 藤巻 孝之

先日「北海道でサンマが豊漁」という新聞記事を見つけました。テレビニュースなどでも取り上げられ、明るい兆しが見えてきたことに漁業関係者の方々はもちろん、日本中が安堵したのではないのでしょうか。かくいう私もサンマの大ファンです。ここ数年は不漁が続き、店先でたくさんのサンマが並んでいる姿を見ることが少なくなっただけに、今後が楽しみです。

私は魚が好きで釣り、特に海釣りが好きです。さまざまな魚種を釣り上げては自ら捌き、調理もします。金沢区のとある場所をホームグラウンドとしてよく釣行していたのですが、その釣り場は真東を向いていて、真夏になると水平線から強烈な日差しを放つ朝日が真正面から昇ってきます。不思議なことに、水平線から朝日がわずかに見え始めると小ぶりのアジが突然釣れ始めるのです。その数は時に200を超え、もはや釣りではなく漁の様相を呈してきます。ところが朝日が水平線から顔を出し切った途端、アジはパタッと姿を消します。およそ45分間の出来事でした。

そんなホームグラウンドに変化が現れたのは20年ほど前です。アジの回遊は時期、時間を変え、代わりにソウダガツオが入ってくるようになりました。その後も魚の種類は次々と変わりました。海の中の変化を感じていたところ、一昨年の2019年、台風15号によりホームグラウンドは壊滅的な打撃を受けました。スーパー台風の襲来は現実のものとなり、私たちの生活を脅かしています。これらはすべて、地球温暖化による海水温の変化が影響しているのでしょう。

学校内に目を移すと、至る所で秋を感じることができます。みかんが実を落とし、柿が色づき始めました。桜の葉はすでに半分以上散り、5年生が育てている稲や学校の斜面に自生するススキは黄金色に輝いています。プールの東側では大量のドングリが地面を埋め尽くし、メダカ池の前の花壇ではコスモスが背比べをしているかのように咲き誇っています。その様子を熱心に取材する子どもたちは、大事そうにiPadを抱えながら学校中を奔走しています。

秋は音からも感じるすることができます。授業中でも休み時間でもこぎみよいパーランクーが響きます。3・4年生がエイサーでたたく太鼓の音は、弾むように体を操作しながら踊るこどもたちと相まって躍動感を感じます。夏休み前の朝会で「最近スズメの数が減りました。」という話をしましたが、でき始めた米をめあてに集まるスズメのさえずりもこの時期ならではです。

子どもたちが気付かないまま過ぎていく、変化していく自然の出来事に私たちが肌で感じる機会を提供することは、SDGsの入り口に立つきっかけづくりにもなると思います。10月8日に終業式を行い、前期が終了します。引き続き、肌で感じる体験的な学びを「ひらりん cha-cha-cha」で推進していきたいと思います。

【ほんの少し、プログラムを充実させて ～ 10/16 (土) 運動会 ～】

9月中は、分散登校をはじめとする多くの対応にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。分散登校期間中も「できることから始めよう」と子どもたちは運動会の準備、練習を積み重ねてきました。

今年度も昼食なしの午前プログラムで、児童、保護者（ご家族）、職員のみでの開催となりますが、ほんの少しだけ、プログラムを充実させて実施する予定です。様々な制限がかかる中、力を合わせて「ひらりん cha-cha-cha」でがんばっている子どもたちをぜひ応援してください。